

マレーシア短期派遣帰国後レポート

私は今回のマレーシア短期派遣でマレーシアの大学、研究所、企業などに訪問したことで日本との違いなど新しい発見が多くあった。

MJITの研究室で論文の報告会に参加した際、それに出席している女性の学生の多さに大変驚いた。講義室いっぱい女性の修士や博士の学生が参加していて、男性は一人か二人ほどであった。近くにいた学生の一人に女性がこんなにも多いのはこの研究室だけか他にもこのような感じなのか聞いたところ、工学系以外では女性の修士課程以降の進学率は男性よりも多いと教えてもらった。確かに他の大学や研究所に行った際にも女性の研究者や講師、学生の割合は多いように感じた。日本を含む欧米諸国では理系の修士、博士課程では男性の方が多く感じていたので、マレーシアでは違うのかとカルチャーショックを受けた。しかし、教授の割合で見ると女性の教授は全体の3%ほどしかいないということを知った。これほどまでに女性の学生が大半を占めるのに教授にまでなれる人は少な過ぎる。修士課程以降、授業は基本的に英語で行われるため語学が男性より女性の方が得意だと言われているから女性の進学率が高いとおっしゃる日本人教授がいたが、私はそれよりも宗教的な背景によるものではないかと考える。大学に在籍している学生の多くはマレー系であった。つまり、ほとんどの学生がイスラム教であるということである。女性が仕事を持ち、自立した生活を送るのが難しい中で男性のような社会的立ち位置を得るためにはより高い学歴が必要になってくるのではないかと感じた。またマレーシアでは男性社会だと感じた、そうでなければ女性の高い大学院への進学率にも関わらず進学者数自体が少ない男性の方が教授になる割合が多いのは説明がつかない。結論付けるのには早急ではあるが、マレーシアでの男女雇用均等化はまだ時間がかかると感じた。

マレーシアの様々な大学を見学してもう一つ思ったことがある。それは学生の学ぶ姿勢が受け身であるということである。学生が発表しても他の学生からは意見などがほとんどなく教授がコメントし、発表した方も聞くだけのようだった。他にも私たちが学生と話しているところを教授が全て説明してしまうことが多々あった。細かい学術的なことはもちろん教授たちの方が知っているのは分かるが、私たちは実際に研究している学生たちの意見であったり考えを聞きたくて質問しているのである。このようなことからマレーシアでは教授たちは学生にとって絶対的な存在として立場に差が大きくあるのではないかと感じた。私は滞在中に教授らに意見する学生を見なかった気がする。もちろんこのことはマレーシアだけではなく、タイに国際研修で行った際にも感じたことである。そして、日本でもそのような風潮は確かにあり、感じることはある。私は学問の専門性が深まるほどクリティカルシンキングが必要であると考えている。教授が全知なことはなく、物事には様々な側面があるように考え方やアプローチに多様性がある方がよいはずである。現在ユネスコ

などでも持続可能な教育には PBL、problem based learning や RBL、research based learning が必要だと言われている。このようなリベラル教育を日本も含めより推進することで新たな可能性を広げることができるのではないかと感じた。



私が大学の研究室訪問で特に興味深かったところはマラヤ大学の Institute of Ocean & Earth Sciences での海藻を使った研究である。この研究室を訪れる前に普通の紙の品質管理や製造工程の改善などを行っている施設を訪問していたので木材と海藻という異なる材料から作られる紙

を比較することができた。木材から紙に加工するためには 5、6 回ブリーチングの作業が必要であるが、海藻から加工する場合は 2、3 回で十分であるため製造が容易にでき時間がかからないという利点がある。しかし、海藻の紙は普段私たちがノートなどに使用する紙として使うことはできないと聞いた。海藻の紙は繊維の長さが均一で木材のものよりも手触りが滑らかであった。他にも、破れにくいなどの利点があるので、顔面用のパックに使おうと韓国や台湾の企業と開発を進めているとのことであった。今後どのように品質の向上や製造の確立を目指すのか聞いたところ、韓国の企業から今以上の委託は受けていないから特にもう何もしないと言われ驚いた。日本ではまだ海藻を使用した紙の研究開発はしていないということなので今後ビジネスチャンスがあるのではないかと思った。また、企業との提携が終わっても大学独自でさらに開発を進めるということではできないのかと疑問に思った。向上した品質や製造工程の確立することで新たに市場に売り出すことで大学ブランドを作っても良いのではないかともったいなく感じた。

私にとって今回の短期派遣で筑波大学の先輩方のお話を聴けたことも多くを学ぶ機会であった。筑波大学から参加した学生の多くは修士の方々から将来どのように進むのか悩んでいる私は具体的なイメージを持つことができた。